

感染症情報 12月12日～12月18日

府下小児科201医療機関(堺市19)から

①感染性胃腸炎	4271例(堺市 269例)
②溶連菌感染症	497例(堺市 25例)
③おたふくかぜ	316例(堺市 22例)
④RSウイルス感染症	270例(堺市 11例)
⑤咽頭結膜熱	167例(堺市 9例)

が報告された。

感染症報告数は前週より7.4%増の5,845件であった。報告の第1位は感染性胃腸炎で以下、溶連菌感染症、おたふくかぜ、RSウイルス感染症、咽頭結膜熱の順であった。

1位の感染性胃腸炎は府下で前週比9%増、堺市では同7%増であった。府下広域で警報レベルを越えており、当科周囲でも依然多い。2位の溶連菌感染症は府下で前週比1%増、堺市で9%増であった。おたふくかぜは府下で11%増、堺市で前週8例→22例(単純には2.8倍)であった。4位のRSウイルス感染症は府下で11%減、堺市で35%減であった。

インフルエンザは府下では前週比37%増の867例が報告され、堺市は前週44例→今回43例で横ばいであった。報告定点あたり前週2.0→今回2.8となっている。マイコプラズマ肺炎の報告数は府下では前週42例から今週18例に、堺市では前週3例であったのが、1例に減った。流行性角結膜炎(はやり目)は府下で前週32例、今回33例で横ばいである。

麻疹は渡航歴のある1例が報告された。風疹はなかった。